

第 6 期野尻湖水質保全計画の策定について（中間報告）

第 6 期野尻湖水質保全計画策定専門委員会

1 策定の趣旨

野尻湖では、流域の社会経済活動に伴う富栄養化の進行により、昭和 60 年頃から植物プランクトンによる水道水源のろ過障害が生じ、また、昭和 63 年には淡水赤潮が発生したことから、湖沼水質保全特別措置法に基づき、平成 6 年 10 月に指定湖沼の指定を受け、以来 5 期 25 年にわたり湖沼水質保全計画を策定し、水質保全のための各種施策を実施してきた。

引き続き、地域住民・関係機関との協働により、総合的かつ計画的に実施できる体制を構築し、水質保全施策を一層推進するため、令和元年度を初年度とする「第 6 期野尻湖水質保全計画」を策定する。

2 専門委員会における検討経過

(1) 委員

委員長	戸田 任重	(国立大学法人信州大学 特任教授)
委員	近藤 洋一	(野尻湖ナウマンゾウ博物館 館長)
〃	酒井 美月	(長野工業高等専門学校環境都市工学科 准教授)
〃	野崎 久義	(国立大学法人東京大学大学院理学研究科 准教授)
〃	水谷 瑞希	(信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 助教)

(2) 開催状況

【第 1 回専門委員会】

開催日 令和元年 7 月 8 日 (月)

主な検討内容 ・ 第 5 期計画の水質保全施策の進捗状況、第 6 期計画の策定スケジュール、枠組み
委員からの主な意見

- 近年 COD が下げ止まっている原因を検討していただきたい。
- 環境改善だけでなく、現在の良好な水準を維持していくといった書きぶりも必要ではないか。
- 水質保全とともに観光資源としての利活用等を考えていくことで、野尻湖の個性を活かした計画となるのではないか。

【第 2 回専門委員会】

開催日 令和元年 8 月 23 日 (金) ※現地視察を併せて実施した。

主な検討内容 ・ 野尻湖の水質の将来予測、第 6 期野尻湖水質保全計画 (素案)

委員からの主な意見

- 生活排水施設整備率と下水道接続率の数値目標の整合性は取れているか。
- 湖岸沿いの景観が悪い。見た目がきれいな湖であり続けることが環境保全にも繋がるので、地元意識を高める文言を追加できないか。
- 近年、水草が復元しつつあるため、水草の繁茂により利水障害が将来生じる可能性もある。今後の野尻湖の望ましい姿を検討していくことが必要ではないか。
- 現在の水質は利水上の障害となる状況ではない。湖沼水質保全計画に捉われず、野尻湖の今度のあり方を考えた方がよいのではないか。

3 前回計画からの主な変更点

はじめに（素案1ページ）

○野尻湖の位置図と諸元を追加

3 水質保全に資する事業（素案6ページ）

○下水道等接続と合併浄化槽設置を指標とした「生活排水施設整備率」の数値目標を追加

5 その他水質保全のために必要な措置（素案9、10ページ）

○野尻湖の水草に近年、復元の兆しが見られることから、野尻湖における水生植物のあり方等に関する研究を進めることを追加

○野尻湖の魅力を情報発信するとともに、水質保全意識の向上を目的として野尻湖に人を呼び込むためのエコツーリズムの推進を追加

4 今後のスケジュール

時期	内容
8月29日（実施済み）	地域懇談会
9～10月	計画（素案）への意見募集（パブリックコメント）
10～11月	第3回専門委員会
11月	長野県環境審議会答申 市町村意見聴取、河川管理者との協議
1月	環境大臣との協議（環境省から関係省庁に協議）
3月	環境大臣の同意、策定、公告

5 諮問時の御意見と対応

御意見	対応
単に関連する数字だけを見て水質を改善する計画を策定するのではなく、 <u>野尻湖の個性を活かした計画</u> としてほしい。	野尻湖の良好な水質を維持するとともに、水辺環境や流域の豊かな自然を活かしたエコツーリズムや、水草復元の兆しを踏まえた、水生生物のあり方等に関する研究の推進など、野尻湖の特性を活かした計画としてまいります。